

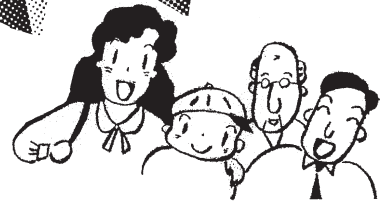
非核の政府を 求める大阪の会

ニュース

非核の政府を求める大阪の会 豊島 達哉
 〒542-0012 大阪市中央区谷町 7-3-4 (新谷町第3ビル 210号)
 発 TEL.06(6765)3032 FAX.06(6765)3033
 行 URL・https://hikaku-osaka.jp/
 E-mail・hikakuosaka@hotmail.com
 hikaku-osaka1986@kind.ocn.ne.jp

第203号 2021年5月1日

「核兵器禁止条約」に参加する政府を!



■ 原水爆被害者、原発被災者の救護、

■ さらに「汚染水」で新たな被害者を出さない非核の政府 実現を今こそ! ■

「関係者の理解なしには、いかなる処分も行わな
い」との漁業関係者との約束を一方的に破り、「汚
染水」の海洋放出方針を菅政権は決定した。さらに
吉村大阪府知事も賛意を表明し、従来からの主張を
繰り返し、コロナ禍で苦しんでいる大阪府民への不
安を増長させるような発言を行っている。大阪非核
の会は、当会の常任世話人の吉井英勝氏にあらため
て福島原発事故10年を迎えた今年、その問題を明
らかにしてもらう論稿を依頼し、ここに掲載・紹介
します。

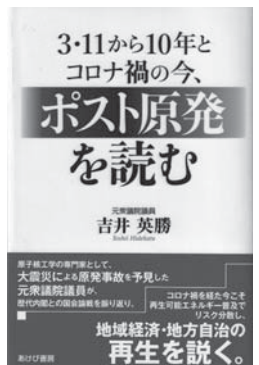
福島第1原発事故
からちょうど10年が
過ぎました。被災者の
皆さんは元の住宅に帰
れたでしょうか? 農林
漁業も中小企業も、元
の通りに仕事を再開で
きているでしょうか?
みんなが元に戻れたわ
けではなく、仕事を再
開できた人々も「風評
被害」の払しょくによ
うやくたどりつけるか
なという厳しい状況に
おかれています。

この福島第1原発で
排出され続けている処
理不十分の汚染水を海
に放出する方針を、政
府が4月13日に強引
に正式決定しました。
核燃料デブリを冷却し
た62種類の放射性物
質を含む汚染水を「多
核種除去設備 (ALPS)」
など複数の大型装置に
通し、放射性物質や塩
分などを取り除いた処
理水を放出としてしま
したが、2年前の発表
で、トリチウム以外の
62種類の放射性物質
の中で、ストロンチウ
ム90、ヨウ素129
などの放射性核種が含



が限度で、計測器がず
つと警報音を鳴らし続
けるといふ状態で、原
発事故の凄まじさがよ
く分かります。

1950年代、小学
生だった頃に、ビキニ
環礁での核兵器実験が
繰り返されて、子供の
頭の中にも「ストロン
チウム90」「セシウム
134」という言葉と
「骨をはじめ人間の体
に放射線被ばくによる
障害が出てくる」とい
う事がインプットされ
ました。70年たつて
再び「汚染水」という
形で表れてきました。



福島処理水
には、(1)貯蔵に
関する基準、(2)
放出に関する基準
の2つの基準があ
り、タンクに溜ま
っている処理水の多く
は(1)の貯蔵基準は満
たしているが、より厳
しい(2)の放出基準
は、満たしていません。
そこで政府は、海洋放
出にあたって、再び浄
化処理をして(2)の
基準をクリアすること
と、海水で100倍以上
に希釈するとしてい
ます。

処理水とは、福島第一
原発の3つの原子炉か
ら常に発生しつづけて
いる「汚染水」を、リ
スク低減のために処理
したというものです。
原子炉内で溶けた核燃
料に冷却水をかけ続け

- 【非核五項目】
- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
 - ② 国是とされる非核三原則を厳守する
 - ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
 - ④ 国家補償による被害者援護法を制定する
 - ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまででの合意にもとづいて国際連帯を強化する

ています。そのほか、地下水や雨水なども建屋内に流入し、核物質が混じり合った危険な「汚染水」が日々、生まれてきます。この汚染水を「多核種除去設備 (AIPB)」など複数の大型装置に通し、放射性物質や塩分などを取り除く。これにより、トリチウムを除く62種類の放射性物質を取り除く処理を行ったものが、放出が決まった「処理水」だと呼んでいます。処理水はこれまで、原発敷地内に次々と据え付けた大きなタンクに溜め続けてきた。しかし、このままではタンクを増設する場所もなくなり、原発の廃炉作業にも差し支えるというのが、政府と東京電力が放出を考えた始めたきっかけとするが、処理水には、再び浄化処理をして

(2)の基準をクリアすることに加え、海水で100倍以上に希釈することにしています。海洋放出されることによる人体への影響はあるのか。処理水の処分方法について議論する政府の小委員会は2019年、仮にそれまでタンクに貯蔵されているすべての処理水(860兆ベクレル)を1年間で処分したとしても、その影響は自然に存在する放射性物質から受ける影響(2.1ミリシーベルト/年)の1000分の1以下の影響にとどまるという試算を発表しています。大事なことは、「試算」でなく「余分な被曝のリスクにさらさないこと」です。

石油化学工場で見られるような本格的なタンクに貯蔵することになれば、仮設タンクにためている汚染水を入れ替えて、余裕が出てきます。これに福島第二原発の敷地の活用を検討に加えれば、もつと余裕が生まれてきます。あと10年すれば半減期10.32年からして4分の1に減衰します。放射線量が減衰していけば、トリチウムを使ってコンクリートブロックな

ど活用可能な土木構造物、防潮堤など活用する道も開けるでしょう。デブリの排出など無理なことを急いで考えることを改めれば、現実的な解決の道を開くことができるでしょう。

【投稿】

高槻市 岩田幸雄

松山 さんの
「遠志を受け継いで」

長い間ともに活動してきた寝屋川市原爆被害者の会の松山五郎さんが、今年2月、91歳で急逝されました。彼は「学徒動員で被爆した。後に鶏肉で栄養をとれたおかげで生き延びた」と語り、若くしてガンで失った娘さんのことを悔やんでおられました。

「ヒバクシャ国際署名」運動では、いつも先頭にたつて沢山集められ、「わしらにはコレ(署名)しかないが、コレが大事なんじゃない」が口癖で、いつも激励をして頂きました。2



松山五郎氏(右端)と岩田幸雄氏

015 NPT再検討会議ニューヨーク行動には、彼や寝屋川市の仲間の被爆体験の英訳冊子を持参し一緒に普及しました。原水禁世大会の壇上に立たれた時の、そしてニューヨーク街頭を横断幕を掲げて先頭で行進された時の、あの誇らしげな笑顔を決して忘れることはできません。

しかし日本政府の情けない態度をふくめて、核兵器のない世界への道は未だ半ばです。松山さんの被爆体験記録を読み返し、ご冥福を祈りながら、来るべき総選挙では必ず禁止条約に批准する政府をつくらうと決意しています。

以上

新

新任世話人の紹介
阪南大学教授
桜田照雄

新しく新任世話人に就任しました桜田照雄(さくらだ・てるお)です。阪南大学流通学部教授です。大阪は船場のはずれ末吉橋のたもとで生まれ、大阪星光学院・大阪市立大学(宮本憲一ゼミ)・京都大学大学院をへて、阪南大学には1993年からお世話になっています。

大阪に24年、京都で20年を過ごし、いまは、六甲嵐(ろっこうおろし)と浜風の甲子園で暮らしています。大学では、スキー場の経営問題を手がかりに、地域とスポーツとの結びつきを研究するとともに、スポーツ産業論やスポーツ哲学を講義しています。

また、日本語をきちんとトレーニングすれば、学生の知的能力が飛躍的に高まるとの確信のもとに、学生に

◆学習・講演会 (ウェブ併用で行います。)

日時: 5月18日(火) 17:00~18:00

テーマ: 「ポスト原発を考える」

講師: 吉井英勝さん (元衆・参議院議員、
原発・エネルギー・地域研究会代表、
非核大阪の会常任世話人)

会場: 新日本婦人の会会議室



は小中高での学習とはまったく違う、学問の世界を体験させたいと努力を重ねています。人々が平和のうちに暮らせる社会、戦争の恐怖から免れる社会を創り出すには、とりわけ、若い人たちの知的な活動を育まなければなりません。暮らしにくさ、生きにくさに悩まされることも少なくないのが、今の日本社会。過酷な現実には、きつぱりと、こうべを上げて向き合う。そんな若者たちを運動を通じて育てることに、力を尽くしたいと考えています。

今年1月22日、国際政治史上、初めて核兵器は違法であることを規定した「核兵器禁止条約」が発効しました。全労連の役員として、非核の政府を求める会（全国の会）の役員として世界のいろいろな場面に立ち合い、国際政治を実感されてこられた長尾ゆり氏（当会常任世話人）に『核なき世界をめざして』と題して見聞記をシリーズで寄稿していただきます。

『核なき世界をめざして』①
2016年秋、ドイツの高校で「核兵器」の

授業

核兵器禁止条約が発効して3か月が過ぎました。締約国はゆつくりと、でも着実に増えています。核兵器廃絶の動きは確かな流れになっていきます。この数年間、私が全労連の役員として経験したことをお話ししながら、皆さんとこの変革の時代を共有したいと思えます。よろしくお願います。

2016年3月、ヒバクシャ国際署名がスタートしました。平均年齢80歳を超えた被爆者が、「生きている間に『核兵器のない世界』

を実現したい」と呼びかけた署名は全国に広がり、8月の世界大会は、署名を集める決意であふれました。そして、被爆者の呼びかけは、思想や信条、組織の違いを超えた共同をうみだし、原水協も原水禁も参加する「ヒバクシャ国際署名連絡会」が結成されたのでした。

その2016年秋、“IPB（国際平和ビューロー）ベルリン世界会議”において、「ヒバクシャ国際署名を世界で取り組もう」と呼びかけるために、「日本代表団」がヨーロッパに派遣されました。訴えるのは、原水協事務局次長の土田弥生さんと日本被団協代表委員の田中照巳さんです。



左端兵庫県梶本氏、日本被団協田中氏、佐久間氏 右端筆者

私は、団の一員として参加させてもらい、9月30日〜10月2日、会議が行われたベルリン工科大学の一角で原爆写真展を開催したり、署名を集めたり。当たり前のことですが、とても反応は良く、忙しく楽しい時間を過ごしました。

実は、その総会のあと、10月3日・4日・5日が、私にとっては「日本代表団」活動の本番でした。広島被団協の佐久間邦彦理事長と神奈川原水協の大石

舞さんと私の3人で、ボンとフランクフルトを訪問したのです。メインの皆さんは核保有国のイギリスを訪問し、私たちは「核の同盟国」のドイツで被爆の実相を訴えたのです。

核にしがみつ

く国々が論拠として「核抑止力論」を打ち破る最も大きな力は、何と言っても「被爆の実相」です。一瞬間のうちに町を破壊し、地獄に変えてしまう兵器。人間として死ぬことも、人間らしく生きることも許さない、絶滅だけを目的とした絶対悪の兵器。その「実相を知らせる」というとても大きな任務を持った小さな3人組でした。

10月3日、ボンで、私たちを出迎えてくれ

た平和団体のやさしい男性たちは「核兵器いらない」と旗を掲げながら、町を案内してくれました。まるで小さな「平和行進」です。途中で、ベートーヴェンの生家に立ち寄りながら。彼らにとって、「我が町の誇り」であるベートーヴェンについて、日本の平和活動家と語り合えたのがすごくうれしかったようです。12月には、なんと「ベートーヴェンのCDセット・12枚組」のクリスマスプレゼントが届いたので、ドイツの本場から。感激しました。

10月4日は、ボン市立統合型総合学校（高校）の図書室で、特別授業。80人ちょっとの学年の特別授業を二人の高校生がリーダーとして仕切ってくれました。先生は横で立ってみているだけです。まずは私がいさつ、そして佐久間さんの被爆証言、続いて、私から歴史的説明や核兵器をめぐる動きや平

和運動の話、最後に大石さんが若者としての考え・決意でしめくくり。3人の絶妙なチームワークが生徒たちに感動を与える授業となりました（自画自賛です）。「戦争を終わらせたい」という意見を、どう考えますか「アメリカを憎んでいますか」「核兵器をなくすことはできるのでしょうか」・・・次々と出る質問に一生懸命答えますが、気になるのは時間です。高校教師をして

いた私は、授業時間数に振り回された日本の経験から、「次の授業は大丈夫か」「この授業を計画してくださった先生に迷惑が掛からないか」と心配で心配で、先生にたずねました。すると、「きょうの授業は、あの二人に任せているから」と、きつぱり。

やっと質問の嵐が終わって、「今日は聞いてくれて本当にありがとう」と言うと、拍手の後、「サインは？」と生



▲ボンの高校

徒たち。私が、平和運動の一つとして紹介した「ヒバクシャ国際署名」に「サインしたい」と言ってくれたのです。とてもうれしかったのですが、「署名は、授業と区別して、教室の外でやらなくちゃ」などと、また日本の高校教師の感覚で、先生に「教室で署名してよいのでしょうか」と尋ねると、「やり方は生徒が決めます」と即答です。

もちろん、サインするかどうかは一人ひとりの自由。結果として80名。ほとんどの生徒が署名してくれました。署名の順番を待ちながら、原爆写真をじっくりと見る生徒たち。10時から始まった授業が終わったのは12時を過ぎていました。



▲フランクフルトのギムナジウム

翌日10月5日は、フランクフルトのギムナジウムで特別授業。ここでも、真剣な彼らの目と鋭い質問が、私たちに勇気づけてくれました。この日も「核兵器は本当になくせますか」が最後の質問。「核兵器なくそうという声を圧倒的多数にすればなくせます。核保有大国だって、国際世論を無視できません。平和を求める声を集めて可視化するのが、署名です。一人一人の声は小さくても集まれば大きな力になります」と、答えると大きな拍手。そして、授業の後には、署名の列。この日も75名、ほぼ全員の署名でした。

今後のとりくみ案内

❖戦跡ウオーク第7回

日時：6月5日(土) 13:30~

集合：南海・地下鉄堺筋線 天下茶屋駅西口

今回は、大阪が発祥の地である国防婦人会が奉納の灯籠や日露戦争俘虜収容所跡を巡ります。

❖ノーモアヒバクシャ近畿訴訟

5月13日(木) 高裁判決 74号法廷 13:15

判決前集会(若松浜公園) 12:30~ 入廷行進 12:50~

判決言渡し 13:15

報告集会(弁護士会館) 14:20~16:00頃

6月24日 高裁弁論 202号法廷 13:30~ 眞鍋穰医師尋問

❖2021年春の憲法大学習会

5月22日(土) 13:20~ 大淀コミュニティセンター

参加協力費 500円

❖核兵器禁止条約発効記念のつどい

5月30日(日) 14:30~ 東成区民センター小ホール

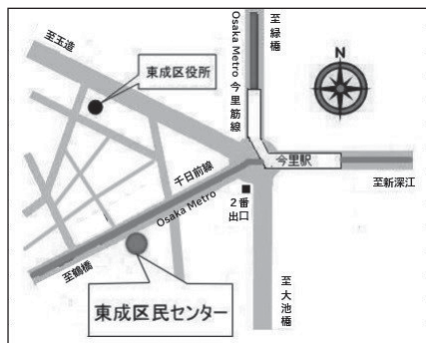
参加費 1000円

申し込み先

大阪のうたごえ協議会



いつまでも、私たちが語った真実の灯が燃え続けていきますように。



書籍の紹介

◇1面紹介の吉井英勝著『ポスト原発を読む』(販価1400円)

◇非核の政府を求める会パンフ

『人類の未来を守れ!いま、潮目が変わる、時代を変える』販価1000円
問い合わせ・ご注文は当会へ